



DRCC 新「評価センター」を開設、試験品質・精度の向上へ

化粧品・医薬部外品、健康食品の安全性・有効性評価試験の受託サービスを展開するDRCC(本社：大阪)は、昨年より建築していた新「評価センター」(6階建て)が完成し、新評価センターにて試験業務を開始した。高野憲一社長は、完成の喜びを意気込みに変え、「新評価センターの落成を機に、より技術に磨きをかけていく」と語った。



新評価センターは、被験者と従業員が快適に安心して参加できるよう設計・デザインした。建物の災害耐性を向上させ、各評価試験の実施施設を集約

「ヒト有用性試験フロア」と「安全性試験フロア」は、被験者の動線を重視したレイアウトに設計した。ヒト有用性試験フロアにある恒温恒湿の環境試験室は、34㎡の広さを確保しており、複数の測定機器を用いた試験の実施が可能だ。また、診療所開設の届出をする

ことで、採血などの医療行為も可能となる。紫外線防御試験フロアでは、ISO24444(2019)とISO24442に適合したspf・UVAPF試験の設備を拡充した。また、ISO16217に準拠した耐水SPF試験用の水浴設備も導入している。invitro試験専門フロアは、細胞実験室、秤量室、一般実験室を備え、室内の仕切り壁に設置した見学の窓から、試験の様子を見ることができ、

今後は新しい機器を導入し、対応できる試験のバリエーションを増やしていく予定だという。